

DT-870M51

(レーザーキャナモデル)

バーコードスキャナー機能解説書

Ver 1.00

Copyright© 2003 CASIO COMPUTER CO., LTD.
All rights reserved.

目次

§1.概要.....	1
§2.機能.....	2
2-1.機能概要.....	2
2-1-1.レーザスキャナ部.....	2
2-1-2.デコード部.....	2
2-1-3.ファンクション部.....	4
2-2.機能分類.....	5
2-3.機能詳細.....	5
2-3-1.開始/終了.....	5
2-3-2.バッファ制御.....	5
2-3-3.モード設定/参照.....	6
2-3-4. ini ファイル読み込み/書き込み.....	10
§3.ファンクション詳細.....	11
3-1.関数一覧.....	11
3-2.関数詳細.....	13
O B R B I O S 開始処理.....	13
O B R B I O S 終了処理.....	14
O B R バッファ1文字リード.....	15
O B R バッファ文字列リード.....	16
O B R バッファ状態の参照.....	18
O B R バッファのクリア.....	19
O B R 動作モード参照.....	20
O B R 動作モード設定.....	22
O B R バッファの切替え.....	26
O B R 読取コード情報GET.....	27
O B R C O D E - 3 9 情報GET.....	28
O B R N W - 7 情報GET.....	29
O B R W P C A 情報GET.....	30
O B R W P C 情報GET.....	31
O B R U P C A 情報GET.....	32
O B R U P C 情報GET.....	33
O B R Industrial2of5 情報GET.....	34
O B R Interleaved2of5 情報GET.....	35
O B R C O D E - 9 3 情報GET.....	36
O B R C O D E - 1 2 8 情報GET.....	37
O B R M S I 情報GET.....	38
O B R I A T A 情報GET.....	39
O B R 読取方式情報GET.....	40
O B R ブザー制御情報GET.....	41

OBR LED制御情報GET	42
OBR 出力バッファ情報GET	43
OBR 終了コード情報GET	44
OBR 読取動作モードGET	45
OBR 照合回数情報GET	46
OBR 読取回数情報GET	47
OBR スキャン終了監視タイマ情報GET	48
OBR 読取コード情報SET	49
OBR CODE - 39情報情報SET	50
OBR NW - 7情報情報SET	51
OBR WPCA情報情報SET	52
OBR WPC情報情報SET	53
OBR UPCA情報情報SET	54
OBR UPC情報情報SET	55
OBR Industrial2of5 情報SET	56
OBR Interleaved2of5 情報SET	58
OBR CODE - 93情報情報SET	59
OBR CODE - 128情報情報SET	60
OBR MSI情報情報SET	61
OBR IATA情報情報SET	62
OBR 読取方式情報SET	63
OBR プザー制御情報情報SET	64
OBR LED制御情報SET	65
OBR 終了コード情報SET	66
OBR 読取動作モード情報SET	67
OBR 照合回数情報SET	68
OBR 読取回数情報SET	69
OBR スキャン終了監視タイマ情報SET	70
OBR 初期値情報SET	71
OBR ini File 読込み情報SET	72
OBR ini File 書き込み	74
OBR フィルタモード情報GET	75
OBR フィルタモード情報SET	76
OBR フィルタONタイマ情報GET	77
OBR フィルタONタイマ情報SET	78
LOG 情報採取要求	79
§4. LOG情報説明.....	80
4-1. LOG ファイル形式	80
4-2. スキャナ部LOGIDの説明	81
4-3. デコーダ部LOGIDの説明	83

§ 1.概要

本仕様書は、バーコードスキャナー（OBR）機能に関して説明します。

§ 2.機能

2-1.機能概要

O B R 機能は、バーコード入力を行なうために提供する関数群と、トリガキー押下後、レーザスキャナを制御し、バーコードからコードを読み出す割り込みハンドラ部（デコーダーを含む）から成り立っています。

2-1-1.レーザスキャナ部

項目	仕様	
発光素子	赤色半導体レーザー	
発光波長	650 ± 10nm	
光出力	< 1.0 mW	
走査方式	往復振動式ミラー	
走査回数	100 ± 20scan/sec	
レーザー光走査角度	54 ± 5deg	
読み取り角度	44deg	
読み取り PCS	0.45 以上スペース/マージンの反射率は 70%以上	
間口からの最大読み取り距離	分解能 (mm)	距離 (mm)
	0.125	最小:60 最大:90
	0.150	最小:50 最大:100
	0.250	最小:50 最大:190
	0.500	最小:50 最大:300
	1.000	最小:50 最大:450

2-1-2.デコード部

読み取り可能コード

W P C	J A N 規格 : J I S X 0 5 0 1 J A N - 1 3 , J A N - 8 J A N - 1 3 a d d o n (+ 2 , + 5) , J A N - 8 a d d o n (+ 2 , + 5)
E A N 規格 :	G e n e r a l S p e c i f i c a t i o n f o r t h e A r t i c l e S y m b o l M a r k i n g E A N - 1 3 , E A N - 8 E A N - 1 3 a d d o n (+ 2 , + 5) , E A N - 8 a d d o n (+ 2 , + 5)
U P C 規格 :	U P C S y m b o l S p e c i f i c a t i o n J a n 1 9 8 6 U P C - A , U P C - B , U P C - E U P C - A a d d o n (+ 2 , + 5) , U P C - B a d d o n (+ 2 , + 5) U P C - E a d d o n (+ 2 , + 5)
C O D E - 3 9	
N W - 7 (C O D A B A R)	
2 o f 5 (I n t e r l e a v e d / I n d u s t r i a l)	
C O D E - 9 3	
C O D E - 1 2 8 / E A N - 1 2 8	
M S I	
I A T A	

読み取り桁数と出力フォーマット

バーコード種類	規格	読取桁数	出力フォーマット	備考	
WPC	JAN-13	13	FFMMMMNNNNNCJ	F: カトリフラグ M: 生産者コード N: 商品コード S: システムバ ーキャラクタ A: addon データ J: 終了コード (CR または LF または CR+LF) UPC-B を除きチェックジ ャット(mod 10)の計算は必ず行われます	
	EAN-13	13	FFMMMMNNNNNCJ		
	JAN-8	8	FFMMNCJ		
	EAN-8	8	FFMMNCJ		
	JAN-13 addon+2	15	FFMMMMNNNNNCAAJ		
	EAN-13 addon+2	15	FFMMMMNNNNNCAAJ		
	JAN-13 addon+5	18	FFMMMMNNNNNCAAAAAJ		
	EAN-13 addon+5	18	FFMMMMNNNNNCAAAAAJ		
	JAN-8 addon+2	10	FFMMNCAAJ		
	EAN-8 addon+2	10	FFMMNCAAJ		
	JAN-8 addon+5	13	FFMMNCAAAAAJ		
	EAN-8 addon+5	13	FFMMNCAAAAAJ		
	UPC-A	12	OSMMMMNNNNNCJ		
	UPC-B	12	OSMMMMNNNNNNJ		
	UPC-A addon+2	14	OSMMMMNNNNNCAAJ		
	UPC-B addon+2	14	OSMMMMNNNNNAAJ		
	UPC-A addon+5	17	OSMMMMNNNNNCAAAAAJ		
	UPC-B addon+5	17	OSMMMMNNNNNCAAAAAJ		
	UPC-E	(7), 8	OMNNNMCJ		最後の M: 0~2
		(7), 8	OMMNN3CJ		
	(7), 8	OMMMN4CJ			
	(7), 8	OMMMNMCJ	最後の N: 5~9		
UPC-E addon+2	(9), 10	OMNNNCAAJ	最後の M: 0~2		
	(9), 10	OMMNN3CAAJ			
	(9), 10	OMMMN4CAAJ			
	(9), 10	OMMMNCAAJ	最後の N: 5~9		
UPC-E addon+5	(12), 13	OMNNNCAAAAAJ	最後の M: 0~2		
	(12), 13	OMMNN3CAAAAAJ			
	(12), 13	OMMMN4CAAAAAJ			
	(12), 13	OMMMNCAAAAAJ	最後の N: 5~9		
CODE-39		3~40	SBBB.....BBCSJ	A: ASCII 変換後データ, B: ASCII 変換前データ C: チェックジ ャット(mod 43) チェックジ ャットなしの場合は、データとなります S: スタートストップ キャラクタ(*)	
		3~40	SAAA.....AAC SJ		
		1~38	BBB.....BBCJ		
		1~38	AAA.....AACJ		
NW-7		3~40	SDDD.....DDDEJ	S: スタートコード (a, b, c, d のいずれか) E: エンドコード (a, b, c, d のいずれか) D: データ	
		1~38	DDD.....DDDJ		
Interleaved 2 of 5		2~40	DDD.....DDDCJ	D: データ C: チェックジ ャット(mod 10) チェックジ ャットなしの場合は、データとなります 読取桁数は偶数桁のみ	
Industrial 2 of 5		2~40	DDD.....DDDCJ	D: データ C: チェックジ ャット(mod 10) チェックジ ャットなしの場合は、データとなります 読取桁数は偶数桁のみ	
CODE-93		1~40	AAA.....AAAJ	A: ASCII 変換後データ, B: ASCII 変換前データ C: チェックジ ャット(mod 47) S: スタートコード, E: エンドコード	
CODE-128		1~64	AAA.....AAAJ	A: ASCII 変換後データ, B: ASCII 変換前データ C: チェックジ ャット(mod 47) S: スタートコード, E: エンドコード, F: コード ID (" J C1 ", EAN-128 のみ) G: GS(1Dh, EAN-128 のみ)	
		1~64	SBBB.....BBCEJ		
		1~64	FAAA.....AAAJ		
		1~64	GAAA.....AAAJ		
MSI		1~40	DDD.....DDCCJ	D: データ C: チェックジ ャット(mod 10, mod 11) チェックジ ャットなしの場合は、データとなります	
IATA		1~40	DDDDDDDD.....CJ	D: データ C: チェックジ ャット(IATA 仕様) チェックジ ャット無しの場合はデータとなります P: タボン NO. A: エアライン NO. D: データ C: チェックジ ャット	
			PADDDDDDDDDDDDCJ		

読取桁数が、カッコの桁の場合は、出力フォーマットに「C」は付加されません。

2-1-3.ファンクション部

ファンクション部は、バーコード入力を行なうために提供する関数群のことです。本製品の OBR で提供されている関数には次のようなものがあります。

- (1) 開始 / 終了
レーザーの読み取りを開始 / 終了します。
- (2) 1文字 / 文字列読み込み
OBR バッファよりデコードしたデータを一文字または、文字列で読み出します。
- (3) OBR バッファの状態チェック
OBR バッファのデコードしたデータの格納状態をチェックし、バッファ内の残りデータ数を通知します。
- (4) OBR バッファのクリア
OBR バッファをクリアします。
- (5) 格納先バッファの切り替え
読み取りデータの出力先を OBR バッファまたは、キーバッファに切り替えます。
- (6) OBR 動作モードの設定 / 参照
読み取り方式等の動作モードの設定 / 参照を行いません。
- (7) 状態参照
レーザーによる読み取りの状態を参照します。
- (8) ini ファイル読み込み / 書き込み
ini ファイルにモード設定情報の読み込み及び書き込みを行いません。
- (9) LOG 情報採取
スキャナ部とデコード部がそれぞれに設定した LOG 情報の採取を行いません。
ルートディレクトリ上にファイルに出力します。
(スキャナ部 : ObrLog.dat、デコーダ部 : DecodeLog.dat)

2-2. 機能分類

本製品の OBR では提供する各関数を次のように分類しています。

機能分類	関数	備考
開始/終了	OBR BIOS 開始処理	
	OBR BIOS 終了処理	
バッファ制御	OBR バッファ1文字リード	
	OBR バッファ文字列リード	
	OBR バッファの状態参照	
	OBR バッファのクリア	
	OBR バッファの切り替え	
モード設定/参照	OBR 動作モードの参照	
	OBR 動作モードの設定	
	OBR 動作モードの初期値設定	
ini ファイル読み込み/書き込み	OBR ini ファイル読み込み要求	
	OBR ini ファイル書き込み要求	

2-3. 機能詳細

2-3-1. 開始 / 終了

レーザーを点灯し、バーコードの読み取りが出来る読み取り可能状態と、レーザーを消灯し、バーコードの読み取りが出来ない読み取り待機状態の切り替えを行ないます。また、現在の状態を参照することができます。

開始処理はモード設定とは別に、読み取りコードの設定を行なうことも可能です。

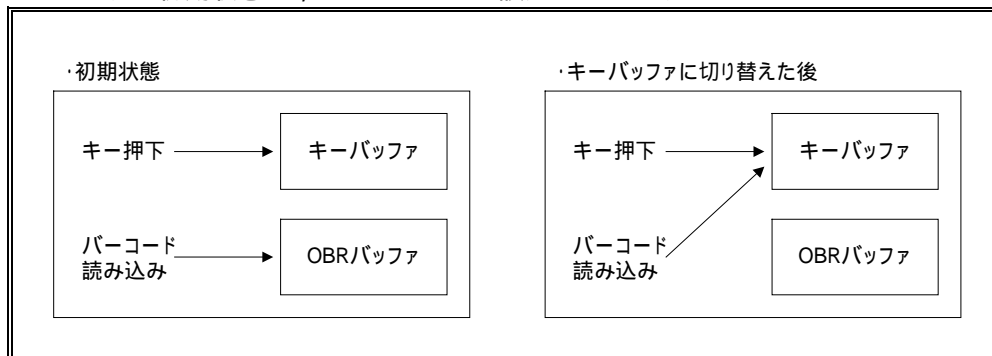
2-3-2. バッファ制御

バーコード入力を行なったデータを格納しているバッファ（以後 OBR バッファ）の制御を行なうために本製品の OBR では次の関数が提供されています。

- (1) OBR バッファ1文字リード
OBR バッファに格納されているデコードデータの先頭から1バイト分読み出します。
- (2) OBR バッファ文字列リード
OBR バッファに格納されているデコードデータを1ラベル分読み出します。
- (3) OBR バッファの状態参照
OBR バッファに格納されているデコードデータの状態をチェックし、バッファ内の残りバイト数と残り段数を通知します。
- (4) OBR バッファのクリア
OBR バッファに格納されているデコードデータをすべてクリアします。
- (5) 出力バッファ切り替え

DT-870M51 バーコード機能解説書

データの出力先をキーバッファに切り替えることにより、読み取ったデータをキー入力と同等に扱うことができます。初期状態は、OBR バッファを設定しています。



各バッファの使用方法を記載します。

OBR バッファ	バーコードを読み取るとコード種別・データバイト数とともにデコードデータをバッファに保存します。バッファ内のデータはクリアするまで保存されるので、自由なタイミングで読み出しが可能です。また、バッファ内のデータをすべて読み出して不要になったときは、バッファをクリアしてください。
キーバッファ	通常のキー入力と同様にデコードデータをキーバッファに出力します。OBRバッファから切り替えた時は、OBRバッファを一旦クリアしてください。キーバッファ出力には、指定ウィンドウとアクティブなウィンドウとの2種類の出力方法があります。

2-3-3.モード設定 / 参照

バーコード入力を行なう為の前準備として本製品のOBRでは以下に記載した項目を設定することが可能です。

	項目	備考
バーコード関連	読み取りコード	
	読み取り桁数	
	出力フォーマット	
	チェックデジットの計算	
	チェックキャラクタの出力	
出力関連	出力先バッファ	
	終了コード	
読み取り関連	読み取り方法	
	読み取り動作	
	ブザー制御	
	LED制御	
	読み取り回数	
	照合回数	
	スキャン時間	

次に各項目の詳細について記載します。

(1)読み取りコード

デコード処理の処理時間の関係から、特定のコードしか読み取らない場合は使用するコードのみを指定しておくことを推奨します。

設定条件	コード	備考
自動機別 (全てのコードを選択した時)	NW-7 CODE-39 Industrial 2of5 Interleaved 2of5 CODE-93 CODE-128(EAN-128) MSI WPC(UPC-E以外) addon +2(5) WPC(UPC-E以外) UPC-E addon +2(5) UPC-E IATA	↑ デコードの優先順位 高い ↓ デコードの優先順位 低い
コード限定	単一および任意の複数コードが選択可能です	(複数コードを設定した場合の優先順位は上段の通りです)

(2)読み取り桁数

コードごとに読み取り桁数の有効範囲の指定が可能です。

各コードの設定可能範囲は次の通りです。

WPC	:	桁数は固定 (設定不可能)
CODE-39	:	2～38桁 (スタート/ストップキャラクタを含みません)
NW-7	:	2～38桁 (スタート/ストップキャラクタを含みません)
Industrial 2of5	:	2～40桁
Interleaved 2of5	:	4～40桁
CODE-93	:	1～40桁
CODE-128	:	1～64桁
MSI	:	1～40桁
IATA	:	1～40桁

制限事項：

- Interleaved 2of5 は仕様上、コードデータは必ず偶数桁です。
奇数桁の指定をした場合、最小桁は(指定桁+1)の桁数まで、最大桁は(指定桁-1)の桁数までが読み取り可能となります。従って、最大最小桁に同一の奇数を指定した場合、なにも読み取れなくなります。
- 誤読防止のため、CODE-39 および NW-7 の 1 桁、Interleaved 2of5 の 2 桁に関しては、コードを限定した場合のみ設定可能です。

< 設定範囲 > 1コード限定のとき

CODE-39	:	1～38桁 (スタート/ストップキャラクタを含みません)
NW-7	:	1～38桁 (スタート/ストップキャラクタを含みません)
Interleaved 2of5	:	2～40桁

(3)出力フォーマット

次に記載するバーコードの種類は、出力フォーマットの設定が可能です。

バーコードの種類	設定内容	初期状態
CODE-39	スタート/ストップキャラクタの出力の有無を設定	出力有り
	Full ASCII 変換の有無を設定	変換なし
NW-7	スタート/ストップキャラクタの出力の有無を設定	出力有り
CODE-128	変換前データ/変換後データ(ASCII)のどちらかを出力するかを設定	変換後データ
	EAN-128 出力の有無を設定	出力無し
	コード ID 出力の有無を設定(EAN-128 のみ)	出力無し
	先頭 FncI を GS に変換して出力するかを設定(EAN-128 のみ)	出力無し

(4) チェックデジットの計算

各コードの計算方式による結果とチェックキャラクタを照合し、一致したときのみデコードを完了する設定を有効/無効にすることができます。(NW-7 は除く)

(5)チェックキャラクタの出力

次に記載するバーコードの種類は、チェックキャラクタの出力を有効/無効にする指定が可能です。

バーコードの種類	初期状態
CODE-39	出力有り
UPC-E / UPC-E addon	出力有り
Industrial 2of5	出力有り
Interleaved 2of5	出力有り
MSI	出力有り

(6)出力バッファ取得

デコードデータを出力する、現在のバッファ設定を取得します。

(7)終了コード

バーコードデータの最後につける制御コードを次の3種類から選択できます。

- ・CR
- ・LF
- ・CR+LF

(8) 読み取り方法

読み取り方法は次の項目から選択が可能です。

連続読み (トリガキー有り)	トリガキーを押下している間常に読み取り可能状態となります。 また、二度読み防止のため同一ラベルを連続して読むことは出来ません。	・前コード読み取り完了後、 ・スキャン時間が経過 ・指定読み取り回数分の読み取り完了 ・トリガキー離し
連続読み (トリガキー無し)	トリガキーを押下しなくても、OBROpen関数で読み取り可能状態となります。	・OBRClose関数呼び出し
連続読み (トリガキー切り替え)	トリガキーを押下する毎に読み取り可能状態、読み取り待機状態を繰り返します。	・トリガキーによる切り替え
連続読み (2アクションモード)	最初のトリガキーを押下によりレーザーが点灯しますが読み取りはしません、再度トリガキー押下により読み取りを開始します。	・OBRClose関数呼び出し ・スキャン時間経過
連続読み (回数読みモード)	トリガキーすると読み取り可能状態となります。同一データを300回読み取ると読み取り完了となります。 また、二度読み防止のため同一ラベルを連続して読むことは出来ません。	・読み取り完了(同一データ300回読み取り) ・OBRClose関数呼び出し ・スキャン時間経過

(9) 読み取り動作

読み取り方法で連続読みを指定している場合、次の動作切り替えが可能です。

通常読み：オープン後、クローズするまで連続して読み取りが行われます。

段数読み：オープン後、指定された回数分の読み取りが行われます。

(読み取ったコードが既に OBR バッファに格納されているときはカウントされません)

(10) ブザー制御

1 コードごとの読み取り完了をブザー音によって通知することができます。また、ブザー制御を無効にすることも可能です。

ブザーの音量はコントロールパネル上の「Buzzer」によって設定することができます。そのため音量 (Scan 及び Alarm) がオフになっている場合、ブザー音による通知を設定してあっても音はなりません。

(11) LED 制御

1 コードごとの読み取り完了を LED の点灯によって通知することができます。また LED 制御を無効にすることも可能です。

モード	0	1	2
読み取り正常 1	×		
読み取り異常 2	×		×

1 読み取りコードが正常な場合、LED を一定秒間緑色に点灯したのち消灯します。

2 読み取りコードが異常な場合、LED を一定秒間赤色に点灯したのち消灯します。

< 読み取りコードが異常になる要因 >

- ・指定した桁数の範囲外のバーコードを読み取った場合
- ・チェックデジット指定時のチェックデジットエラー
- ・CODE-39 における Full ASCII 変換エラー

(12)読み取り回数

連続読みの場合の読み取りコード数を設定できます。

(設定した回数分のコードを読み取り完了すると、自動的に読み取り待機状態となります)

1~9回まで設定することが可能です。

(13)照合回数

読み取ったデータに対する信頼性を強化するための照合回数を設定できます。

(照合回数をもとに内部で設定された回数の読み取りを行ない照合します)

1~9回まで設定することが可能です。

(14)スキャン時間

トリガキーを押下した後の読み取り可能時間を設定できます。

(設定した時間を経過すると、自動的に読み取り待機状態となります)

1~9秒まで設定することが可能です。

2-3-4. ini ファイル読み込み/書き込み

バーコード入力を行なう為の前準備として本製品の OBR では ini ファイルを読み込むことにより、モード設定の初期値を変更することが可能です

(1) ini ファイル読み込み

ini ファイル (OBRDRV.ini) を読み込み OBR のモード設定初期値を変更します。

モード設定初期値を有効にするには、モード設定/参照の OBR 動作モードの初期値設定を行なうことで有効となります。

OBR ドライバ (OBRDRV.dll) 起動時に必ず ini ファイルの読み込みを行なっています。

(2) ini ファイル書き込み

OBR ドライバ (OBRDRV.dll) の現在設定されているモード設定内容を ini ファイル (OBRDRV.ini) に書き込みをないます。

尚、ini ファイル (OBRDRV.ini) の内容変更を行なうには、設定ツール (Set1D.exe) を使用して変更を行なってください

Set1D.exe は Windows 以下のフォルダにあります。

§ 3. ファンクション詳細

3-1. 関数一覧

No.	関数名	機能
1	OBROpen	OBR BIOS 開始処理
2	OBRClose	OBR BIOS 終了処理
3	OBRGetc	OBR バッファ1文字リード
4	OBRGets	OBR バッファ文字列リード
5	OBRGetStat	OBR バッファの状態参照
6	OBRClearBuff	OBR バッファのクリア
7	OBRGetScanningMode	OBR 動作モード参照
8	OBRSetScanningMode	OBR 動作モード設定
9	OBRChangeBuffMode	OBR バッファの切替え
10	OBRGetScanningCode	OBR 読取コード情報 GET
11	OBRGetCode39Option	OBR CODE-39 情報 GET
12	OBRGetNW7Option	OBR NW-7 情報 GET
13	OBRGetWPCAOption	OBR WPCA 情報 GET
14	OBRGetWPCOption	OBR WPC 情報 GET
15	OBRGetUPCAOption	OBR UPCA 情報 GET
16	OBRGetUPCOption	OBR UPC 情報 GET
17	OBRGetIDF2o5Option	OBR Industrial2of5 情報 GET
18	OBRGetITF2o5Option	OBR Interleaved2of5 情報 GET
19	OBRGetCode93Option	OBR CODE-93 情報 GET
20	OBRGetCode128Option	OBR CODE-128 情報 GET
21	OBRGetMSIOption	OBR MSI 情報 GET
22	OBRGetIATAOption	OBR IATA 情報 GET
23	OBRGetScanningType	OBR 読取方式情報 GET
24	OBRGetBuzzer	OBR ブザー制御情報 GET
25	OBRGetLED	OBR LED 制御情報 GET
26	OBRGetBuffType	OBR 出力バッファ情報 GET
27	OBRGetSuffixChar	OBR 終了コード情報 GET
28	OBRGetModeReadAction	OBR 読取動作モード情報 GET
29	OBRGetCheckCounter	OBR 照合回数情報 GET
30	OBRGetScanningCounter	OBR 読取回数情報 GET
31	OBRGetScanningTimeout	OBR スキャン終了監視タイマ情報 GET
32	OBRSetScanningCode	OBR 読取コード情報 SET

No.	関数名	機能
33	OBRSetCode39Option	OBR CODE-39 情報 SET
34	OBRSetNW7Option	OBR NW-7 情報 SET
35	OBRSetWPCAOption	OBR WPCA 情報 SET
36	OBRSetWPCOption	OBR WPC 情報 SET
37	OBRSetUPCAOption	OBR UPCA 情報 SET
38	OBRSetUPCOption	OBR UPC 情報 SET
39	OBRSetIDF2o5Option	OBR Industrial2of5 情報 SET
40	OBRSetITF2o5Option	OBR Interleaved2of5 情報 SET
41	OBRSetCode93Option	OBR CODE-93 情報 SET
42	OBRSetCode128Settings	OBR CODE-128 情報 SET
43	OBRSetMSIOption	OBR MSI 情報 SET
44	OBRSetIATAOption	OBR IATA 情報 SET
45	OBRSetScanningType	OBR 読取方式情報 SET
46	OBRSetBuzzer	OBR ブザー制御情報 SET
47	OBRSetLED	OBR LED 制御情報 SET
48	OBRSetSuffixChar	OBR 終了コード情報 SET
49	OBRSetModeReadAction	OBR 読取動作モード情報 SET
50	OBRSetCheckCounter	OBR 照合回数情報 SET
51	OBRSetScanningCounter	OBR 読取回数情報 SET
52	OBRSetScanningTimeout	OBR スキャン終了監視タイマ情報 SET
53	OBRSetDefaultSymbology	OBR 初期値情報 SET
54	OBRSetIniFileOption	OBR ini File 読込み情報 SET
55	OBRUpDateIniFileOption	OBR ini File 書き込み
56	OBRGetFilterFunction	OBR フィルタモード情報 GET
57	OBRSetFilterFunction	OBR フィルタモード情報 SET
58	OBRGetFilterOnTimer	OBR フィルタ ON タイマ情報 GET
59	OBRSetFilterOnTimer	OBR フィルタ ON タイマ情報 SET
60	OBRIntLogRequest	OBR LOG 情報採取要求

3-2. 関数詳細

題目	OBR BIOS開始処理	関数名	OBROpen	種類
機能				
<p>OBRの開始処理を行ないます。 動作モードの更新 バッファの初期化 OBRシステムデータの読み込み ハードウェア制御（割込み etc） トリガーキーの登録を行い、トリガーキーをドライバに専有します。</p>				
C言語インタフェース				
【コリング シーケンス】	int	OBROpen	(HANDEL apHwnd, DWORD dwMode);	
【パラメータ】	HANDEL apHwnd		: アプリケーションウィンドウハンドル	
			キー入力データ出力（指定したウィンドウハンドルに出力）指定する 場合に本パラメータにて指定されたウィンドウハンドル に出力します	
			注：動作モード設定の出力バッファ指定を参照して下さい	
	DWORD dwMode		: オープンモード（以下の項目の論理和で指定）	
		OBR_CD39	: CODE39	
		OBR_NW_7	: NW-7	
		OBR_WPCA	: WPC(UPC-E 以外)addon	
		OBR_WPC	: WPC(UPC-E 以外)	
		OBR_UPEA	: UPC-E addon	
		OBR_UPE	: UPC-E	
		OBR_IDF	: Industrial 2of5	
		OBR_ITF	: Interleaved 2of5	
		OBR_CD93	: CODE93	
		OBR_CD128	: CODE128	
		OBR_MSI	: MSI	
		OBR_IATA	: IATA	
		OBR_CHK_ON	: チェックデジット実行指示	
		OBR_OUT_ON	: チェックキャラクタ 出力指示	
【戻り値】	OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	
	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	
	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR（スキャナ部）非常駐状態	
	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode（デコーダ部）常駐失敗	
	OBR_ERROR_HOTKEY	0xFFFF0705	: RegisterHotKeyエラー（トリガーキー登録失敗）	
備考				
<p>現在設定されている動作モードでオープンする場合は、オープンモードに“0”を指定します。 オープンモードが“0”以外の場合、動作モードを一度初期化し、指定されたコードの内容で設定を行ないま す。使用コードのチェックデジット/チェックキャラクタ以外の項目は初期値になります。 本関数で設定できない項目は、動作モードの設定関数で設定を行ってください。</p>				
エミュレータの処理				
<p>OBROpen() 実行済みならエラーを返します。 アプリケーションの Window ハンドルとオープンモードを内部に格納します。 オープン済みフラグをオンします。</p>				

題目	OBR BIOS終了処理	関数名	OBRClose	種類							
機能	<p>OBRの終了処理を行いません。 ハードウェア制御（割込み etc） トリガーキーの解放を行い、ドライバによるトリガーキー専有を解放します。</p>										
C言語インタフェース	<p>【コリック シーケンス】</p> <pre>int OBRClose(VOID);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>なし</p> <p>【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1444 1037 1525"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_POF</td> <td>0xFFFF0701</td> <td>: クローズ済み</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_POF	0xFFFF0701	: クローズ済み
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了									
OBR_POF	0xFFFF0701	: クローズ済み									
備考	<p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen() 実行されていなければエラーを返します。 内部データを初期化します。 オープン済みフラグをオフします。</p>										

題目	OBR バッファ1文字リード	関数名	OBRGetc	種類																																
機能	OBR バッファから 1 文字読み出します。																																			
C 言語インタフェース	<p>【コリング シーケンス】</p> <pre>int OBRGetc(DWORD *dwRcd)</pre> <p>【パラメータ】</p> <pre>DWORD *dwRcd</pre> <p style="text-align: right;">: 読取りコード格納先へのポインタ</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <tr><td>OBR_NONDT</td><td>: データなし</td></tr> <tr><td>OBR_CD39</td><td>: CODE39</td></tr> <tr><td>OBR_NW_7</td><td>: NW-7</td></tr> <tr><td>OBR_WPCA</td><td>: WPC(UPC-E 以外)addon</td></tr> <tr><td>OBR_WPC</td><td>: WPC(UPC-E 以外)</td></tr> <tr><td>OBR_UPEA</td><td>: UPC-E addon</td></tr> <tr><td>OBR_UPE</td><td>: UPC-E</td></tr> <tr><td>OBR_IDF</td><td>: Industrial 2of5</td></tr> <tr><td>OBR_ITF</td><td>: Interleaved 2of5</td></tr> <tr><td>OBR_CD93</td><td>: CODE93</td></tr> <tr><td>OBR_CD128</td><td>: CODE128</td></tr> <tr><td>OBR_MSI</td><td>: MSI</td></tr> <tr><td>OBR_IATA</td><td>: IATA</td></tr> </table> <p>【戻り値】</p> <p>OBR データ (1 文字)</p> <p>* : 未オープン状態にて本関数を実行する場合以下の異常終了が発生することがあります。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>				OBR_NONDT	: データなし	OBR_CD39	: CODE39	OBR_NW_7	: NW-7	OBR_WPCA	: WPC(UPC-E 以外)addon	OBR_WPC	: WPC(UPC-E 以外)	OBR_UPEA	: UPC-E addon	OBR_UPE	: UPC-E	OBR_IDF	: Industrial 2of5	OBR_ITF	: Interleaved 2of5	OBR_CD93	: CODE93	OBR_CD128	: CODE128	OBR_MSI	: MSI	OBR_IATA	: IATA	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_NONDT	: データなし																																			
OBR_CD39	: CODE39																																			
OBR_NW_7	: NW-7																																			
OBR_WPCA	: WPC(UPC-E 以外)addon																																			
OBR_WPC	: WPC(UPC-E 以外)																																			
OBR_UPEA	: UPC-E addon																																			
OBR_UPE	: UPC-E																																			
OBR_IDF	: Industrial 2of5																																			
OBR_ITF	: Interleaved 2of5																																			
OBR_CD93	: CODE93																																			
OBR_CD128	: CODE128																																			
OBR_MSI	: MSI																																			
OBR_IATA	: IATA																																			
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																																		
備考	<p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。</p> <p>*dwRcd に読取りコードを設定するとそれに対応したデータを 1 文字ずつ返します。返されるデータは有意なデータではなく “ 読取りコード名 ” を返します。</p> <p>*dwRcd = OBR_CD39 で呼び出すと、“ O ” , “ B ” , “ R ” , “ _ ” , “ C ” , “ D ” , “ 3 ” , “ 9 ” の順番に返されます。また、読取り方式がトリガ有りの場合はスキン上のトリガボタンを押さないと関数から返って来ません。</p>																																			

題目	OBR バッファ文字列リード	関数名	OBRGets	種類
機能	OBR バッファから 1 コード分の文字列を読み出します。			
C 言語インタフェース	<p>【コリック シーケンス】</p> <pre>int OBRGets(BYTE *buff,DWORD *dwRcd,BYTE *lengs) ;</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE *buff : OBR データ出力先へのポインタ</p> <p>DWORD *dwRcd : 読取りコード格納先へのポインタ</p> <p>OBR_NONDT : データなし</p> <p>OBR_CD39 : CODE39</p> <p>OBR_NW_7 : NW-7</p> <p>OBR_WPCA : WPC(UPC-E 以外)addon</p> <p>OBR_WPC : WPC(UPC-E 以外)</p> <p>OBR_UPEA : UPC-E addon</p> <p>OBR_UPE : UPC-E</p> <p>OBR_IDF : Industrial 2of5</p> <p>OBR_ITF : Interleaved 2of5</p> <p>OBR_CD93 : CODE93</p> <p>OBR_CD128 : CODE128</p> <p>OBR_MSI : MSI</p> <p>OBR_IATA : IATA</p> <p>,BYTE *lengs : データバイト数格納先へのポインタ</p> <p>【戻り値】</p> <p>OBR_OK 0x00000000 : 正常終了</p> <p>OBR_NOT_DEVICE 0xFFFF0703 : OBR (スキャナ部) 非常駐状態</p> <p>OBR_NOT_DEVICE_DECODE 0xFFFF0704 : Decode (デコーダ部) 常駐失敗</p>			

備考**エミュレータの処理**

OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。

トリガーボタンのウェイト中にエラーが発生した場合は OBR_NOT_DEVICE_DECODE が返ります。

*dwRcd に読み取りコードを設定するとそれに対応した文字列データを返します。

返されるデータは有意なデータではなく “読み取りコード名” を返します。

*dwRcd = OBR_CD39 で呼び出すと、“OBR_CD 39” が返されます。また、読み取り方式がトリガ有りの場合はスキン上のトリガボタンを押さないと関数から返って来ません。

題目	OBR バッファ状態の参照	関数名	OBRGetStat	種類	
機能	OBR バッファの状態を読み出します。				
C 言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 359 721">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="274 739 893 770">int OBRGetStat(DWORD *dwLeng, BYTE *lcnt);</pre> <p data-bbox="172 927 343 958">【パラメータ】</p> <p data-bbox="274 963 1181 994">DWORD * dwLeng : バッファ内の残りバイト数格納先へのポインタ</p> <p data-bbox="274 999 1125 1030">BYTE * lcnt : バッファ内の残り段数格納先へのポインタ</p> <p data-bbox="172 1335 290 1366">【戻り値】</p> <p data-bbox="274 1370 1093 1402">OBR_OK 0x00000000 : 正常終了</p> <p data-bbox="274 1415 1268 1447">OBR_NOT_DEVICE 0xFFFF0703 : OBR (スキャナ部) 非常駐状態</p> <p data-bbox="274 1460 1284 1491">OBR_NOT_DEVICE_DECODE 0xFFFF0704 : Decode (デコーダ部) 常駐失敗</p>				
備考	<p data-bbox="162 1756 386 1787">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="185 1805 1013 1836">OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。</p> <p data-bbox="185 1850 718 1881">固定的に * dwLeng=256, * lcnt=2 で返します。</p>				

題目	OBR バッファのクリア	関数名	OBRClearBuff	種類										
機能	OBR バッファのクリアを行ないます。													
C 言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 725 588 754">int OBRClearBuff(void);</pre> <p data-bbox="172 913 341 943">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 958 331 987">なし</p> <p data-bbox="172 1346 288 1375">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1382 1206 1503"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="220 1776 1270 1805">本関数では、OBR バッファの管理情報のみをクリアし、バッファ内のデータはクリアしません。</p> <p data-bbox="164 1854 384 1883">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="186 1888 1011 1917">OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。</p> <p data-bbox="186 1921 948 1951">内部に格納しているデータの読み出し位置を先頭文字の位置にします。</p>													

題目	OBR 動作モード参照	関数名	OBRGetScanningMode	種類
機能	OBRの動作モードを読み込みます。			
C言語インタフェース	<p>【コリガシケス】</p> <pre>int OBRGetScanningMode(M_TBL * modtbl);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>M_TBL *modtbl : 動作モードテーブル格納エリアへのポインタ</p> <pre>struct { DWORD Code; /* 読み取り可能コード */ BYTE Cd39[6]; /* Code39 */ BYTE Nw7[6]; /* Nw-7 */ BYTE Wpcea[6]; /* Wpc(Upc-e 以外)addon */ BYTE Wpce[6]; /* Wpc(Upc-e 以外) */ BYTE Upcea[6]; /* Upc-e addon */ BYTE Upce[6]; /* Upc-e */ BYTE Idsf[6]; /* Industrial 2of5 */ BYTE Itrf[6]; /* Interleaved 2of5 */ BYTE Cd93[6]; /* Code93 */ BYTE Cd128[6]; /* Code128 */ BYTE Msi[6]; /* MSI */ BYTE Iata[6]; /* IATA */ BYTE Resv[20][6]; /* 拡張用 /* 配列[0]リザーブ /* [1]読み取り桁数(Min) /* [2]読み取り桁数(Max) /* [3]出力フォーマット /* [4]チェックビット実行指示 /* [5]チェックキャラクタ 出力指示 BYTE Type; /* 読み取り方式の設定 BYTE Gain; /* Reserved BYTE Buzc; /* ブザーコントロールの設定 BYTE Ledc; /* LED コントロールの設定 BYTE Bufc; /* 出力バッファの設定 BYTE Endc; /* 終了コードの設定 BYTE Mode; /* 通常読み/段数読み指定 BYTE Dumy; /* 拡張用 Int cmp_ct; /* 照合回数 Int rd_ct; /* 読み取り回数 int scn_tm; /* 終了監視タイマカウンタ DWORD gobrW_LCid; /* 拡張用 DWORD gobrW_SMid; /* 拡張用 DWORD gobrW_OWid; /* 拡張用 } M_TBL</pre> <p>【戻り値】</p> <p>OBR_OK 0x00000000 : 正常終了</p> <p>OBR_NOT_DEVICE 0xFFFF0703 : OBR (スキャナ部) 非常駐状態</p> <p>OBR_NOT_DEVICE_DECODE 0xFFFF0704 : Decode (デコーダ部) 常駐失敗</p>			

備考

動作モードテーブルの内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。
本関数で参照できない項目は、データ管理関数を参照してください。

エミュレータの処理

OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。
内部で持っている M_TBL データを返します。

題目	OBR 動作モード設定	関数名	OBRSetScanningMode	種類																
<p>機能</p> <p>OBRの動作モードを書込みます。</p> <p>読取り誤動作を防止するため、OBRオープン中の本関数の実行はできません。 また本関数実行前に、OBRバッファをクリアしてください。 設定パラメータ内にエラーを発見した場合、そのパラメータについては無効としますが、その他のパラメータについては設定を引続き行ないます。 (パラメータ内に1つ以上エラーがあった場合の戻り値は、E_PRMとします)</p>																				
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリング シーケンス】 int OBRSetScanningMode(M_TBL *modtbl);</p> <p>【パラメータ】 M_TBL *modtbl : 動作モードテーブル格納エリアへのポインタ (構造体は OBRGetScanningMode 関数を参照)</p> <p>【戻り値】</p> <table data-bbox="276 1397 1206 1603"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
<p>備考</p> <p>動作モードテーブルの内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。 本関数で設定できない項目は、データ管理関数を用いて設定してください。</p> <p>エミュレータの処理 OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部で持っている M_TBL データを更新します。</p>																				





動作モードテーブル

項目	内容	初期値	設定	参照
読取りコード (4バイト)	<p>b31 b0</p> <p>リザーブ</p> <p>CODE39 NW-7 WPC addon WPC UPC E addon UPCE IDF ITF CODE93 CODE128 MSI IATA</p> <p>* 1 読取るコードに該当するビットをON(1)にします。 (OBR_open 関数のオープンモード指定マクロの論理和でも設定可能)</p> <p>* 2 読取り精度を高めるため、必要なコードのみ読取り設定することを推奨します。</p>	全て 選択 (FFFh)		

DT-870M51 バーコード機能解説書

<p>読取り桁数の設定</p> <p>出力フォーマットの設定</p> <p>チェックデジットの計算指定</p> <p>チェックキャラクタの出力指定</p> <p>(192バイト)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リザーブ</th> <th>Min</th> <th>Max</th> <th>出力フォーマット</th> <th>チェックデジット</th> <th>チェックキャラクタ</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FFh</td> <td>2</td> <td>38</td> <td>0*1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>CODE-39</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>2</td> <td>38</td> <td>0*2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>NW-7</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>WPC(UPCE以外) addon</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>8</td> <td>13</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>WPC(UPCE以外)</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>UPCE addon</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>UPCE</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>2</td> <td>40</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>Industrial 2of5</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>4</td> <td>40</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>Interleaved 2of5</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>3</td> <td>40</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>CODE-93</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>2</td> <td>64</td> <td>0*3</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>CODE-128</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>1</td> <td>40</td> <td>-</td> <td>1*4</td> <td>1</td> <td>MSI</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>1</td> <td>40</td> <td>-</td> <td>0*5</td> <td>-</td> <td>IATA</td> </tr> <tr> <td>FFh</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>リザーブ</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">- 指定なし(各種コードの固定値) 変更不可(値のチェックなし)</p> <p>チェックデジット OBR_CHKDOFF: 計算無し OBR_CHKDON: 計算有り チェックキャラクタ OBR_CHKKOFF: 出力無し OBR_CHKKON: 出力有り</p> <p>*1 CODE39 出力フォーマット OBR_39SON(00h): Start/Stopコード有り OBR_39SOFF(01h): Start/Stopコード無し OBR_39ASON(02h): Full ASCII Start/Stopコード有り OBR_39ASOFF(03h): Full ASCII Start/Stopコード無し</p> <p>*2 NW-7 出力フォーマット OBR_NWSON(00h): Start/Stopコード有り OBR_NWSOFF(01h): Start/Stopコード無し</p> <p>*3 CODE128 出力フォーマット OBR_128AON(00h): 変換後(ASCII)のデータを出力 OBR_128AOFF(01h): 変換前のデータを出力 OBR_128EAN(02h): EAN-128出力有り OBR_128AIM(06h): EAN-128コードID出力有り OBR_128FNC(0Ah): EAN-128Fnc GS出力有り 変換前/後の対応は本仕様書最終頁参照</p> <p>*4 MSIチェックデジット OBR_CHKDOFF(00h): チェックデジット無し OBR_CHKDON(01h): 1桁, mod10 OBR_CDMSEV(02h): 2桁, 1st: mod11 2nd: mod 10 OBR_CDMSTN(03h): 2桁, 1st: mod10 2nd: mod 10</p> <p>*5 IATAチェックデジット OBR_CHKDOFF(00h): チェックデジット無し(読取り桁数1-40) OBR_CHKDON(01h): 最終キャラクタ以外を対象(読取り桁数2-40) OBR_CDMSEV(02h): タホン番号/数値部を対象(読取り桁数15-17) OBR_CDMSTN(03h): 数値部を対象(読取り桁数15-17)</p>	リザーブ	Min	Max	出力フォーマット	チェックデジット	チェックキャラクタ		FFh	2	38	0*1	0	1	CODE-39	FFh	2	38	0*2	-	-	NW-7	FFh	10	18	-	1	-	WPC(UPCE以外) addon	FFh	8	13	-	1	-	WPC(UPCE以外)	FFh	9	12	-	1	1	UPCE addon	FFh	7	7	-	1	1	UPCE	FFh	2	40	-	1	1	Industrial 2of5	FFh	4	40	-	1	1	Interleaved 2of5	FFh	3	40	-	1	-	CODE-93	FFh	2	64	0*3	1	-	CODE-128	FFh	1	40	-	1*4	1	MSI	FFh	1	40	-	0*5	-	IATA	FFh	-	-	-	-	-	リザーブ	<p>左の表参照</p>		
リザーブ	Min	Max	出力フォーマット	チェックデジット	チェックキャラクタ																																																																																																	
FFh	2	38	0*1	0	1	CODE-39																																																																																																
FFh	2	38	0*2	-	-	NW-7																																																																																																
FFh	10	18	-	1	-	WPC(UPCE以外) addon																																																																																																
FFh	8	13	-	1	-	WPC(UPCE以外)																																																																																																
FFh	9	12	-	1	1	UPCE addon																																																																																																
FFh	7	7	-	1	1	UPCE																																																																																																
FFh	2	40	-	1	1	Industrial 2of5																																																																																																
FFh	4	40	-	1	1	Interleaved 2of5																																																																																																
FFh	3	40	-	1	-	CODE-93																																																																																																
FFh	2	64	0*3	1	-	CODE-128																																																																																																
FFh	1	40	-	1*4	1	MSI																																																																																																
FFh	1	40	-	0*5	-	IATA																																																																																																
FFh	-	-	-	-	-	リザーブ																																																																																																
項目	内容		初期値	参照	設定																																																																																																	
<p>読取り方式の設定</p> <p>(1バイト)</p>	<p>b7 b0</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>OBR_TYPE0(00h): 単発読み OBR_TYPE1(01h): 連続読み(トリガキー有り) OBR_TYPE2(02h): 連続読み(トリガキー無し) (非公開) OBR_TYPE3(03h): 連続読み(トリガキー切替え) (非公開) OBR_TYPE4(04h): 連続読み(2アクションモード) (非公開) OBR_TYPE5(05h): 連続読み(回数読み) (非公開)</p>	<p>連続読み</p>																																																																																																				
<p>ブザー制御の設定</p> <p>(1バイト)</p>	<p>b7 b0</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>OBR_BUZOFF(00h): ブザー制御無し OBR_BUZON(01h): ブザー制御有り</p>	<p>ブザー有り</p>																																																																																																				
<p>LED制御の設定</p> <p>(1バイト)</p>	<p>b7 b0</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p>OBR_LEDOFF(00h): LED制御無し OBR_LEDON(01h): LED制御有り OBR_LEDEROF(02h): LED制御有り(Iラ-除く)</p>	<p>LED有り (Iラ-除く)</p>																																																																																																				

DT-870M51 バーコード機能解説書

出力バッファ の参照 (1バイト)	b7 b0  OBR_BUFOBR(00h) : O B R バッファに出力 OBR_STOFF(02h) : K E Y バッファに出力 (OBROpen 要求にて指定された、ウィンドウ ハンドルにキー出力) OBR_ASTOFF(03h) : K E Y バッファに出力 (アクティブ状態のウィンドウにキー出力)	O B R バッファ		×
修了コードの設 定 (バースコードの最後尾 に付加するコード) (1バイト)	b7 b0  OBR_ENDCR(00h) : C R OBR_ENDLF(01h) : L F OBR_ENDCL(02h) : C R + L F	CR		
読取り動作の設 定 (1バイト)	b7 b0  OBR_NORM(00h) : 通常読み OBR_DANN(01h) : 段数読み	通常 読み		
照合回数 の設定 (4バイト)	照合回数は、読み取ったバーコードの正当性をとる為、照合回数分同一 バーコードデータ読み取りを行います。 (指定範囲 1~9)	1		
読取り回数 の設定 (4バイト)	読取り方式を連続読みに指定した場合、読取り回数分連続にバーコード の読み取りを行います。 (指定範囲 1~9)	3		
読取り監視 タイマ (4バイト)	読み取りを開始してから読み取り終了までの監視タイマです。 (指定範囲 1~9 (単位: 秒))	5		
フィルタ モード 設定 (4バイト)	b31 b0  OBR_NOFILTER (0) : フィルタ無 OBR_SOFTFILTER (1) : ソフトフィルタ有 OBR_HARDFILTER (2) : ハードフィルタ有 OBR_SOFTHARDFILTER (3) : ソフト/ハードフィルタ有	0		
フィルタ ON 監視 タイマ (4バイト)	読取開始 (デコード開始) から、フィルタ ON するまでのタイマです。 (指定範囲 1~8 (単位: 秒))	3		

動作モードテーブル内で、記載されていない数値を設定した場合、パラメータエラーとします。

題目	OBR バッファの切替え	関数名	OBRChangeBuffMode	種類																								
機能	<p>OBRデータの出力先を、OBRバッファまたは、KEYバッファのどちらかに切替えます。 KEYバッファの指定にはOBROpen 要求にて指定された、ウィンドウハンドルにキー出力するタイプとアクティブ状態のウィンドウにキー出力するタイプの2種類があります。</p>																											
C 言語インタフェース	<p>【コリング シーケンス】</p> <pre>int OBRChangeBuffMode(BYTE buftyp);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE buftyp : バッファ種別</p> <table> <tr> <td>OBR_BUFOBR</td> <td>0x00</td> <td>: OBRバッファ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0x01</td> <td>: (予約)</td> </tr> <tr> <td>OBR_STOFF</td> <td>0x02</td> <td>: KEYバッファ (OBROpen 要求にて指定された、 ウィンドウハンドルにキー出力)</td> </tr> <tr> <td>OBR_ASTOFF</td> <td>0x03</td> <td>: KEYバッファ (アクティブ状態のウィンドウ にキー出力)</td> </tr> </table> <p>【戻り値】</p> <table> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>				OBR_BUFOBR	0x00	: OBRバッファ		0x01	: (予約)	OBR_STOFF	0x02	: KEYバッファ (OBROpen 要求にて指定された、 ウィンドウハンドルにキー出力)	OBR_ASTOFF	0x03	: KEYバッファ (アクティブ状態のウィンドウ にキー出力)	OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_BUFOBR	0x00	: OBRバッファ																										
	0x01	: (予約)																										
OBR_STOFF	0x02	: KEYバッファ (OBROpen 要求にて指定された、 ウィンドウハンドルにキー出力)																										
OBR_ASTOFF	0x03	: KEYバッファ (アクティブ状態のウィンドウ にキー出力)																										
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																										
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																										
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																										
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																										
備考	<p>エミュレータの処理 OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 出力バッファ先値を内部ワークに格納します。</p>																											

題目	OBR 読取コード情報GET	関数名	OBRGetScanningCode	種類										
<p>機能</p> <p>OBRの動作モード中、読取コード情報（有効/無効）を読み込みます。</p>														
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRGetScanningCode(DWORD *lpdwMode);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>DWORD *lpdwMode : 読取コード情報格納エリアへのポインタ</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="276 1473 1284 1608"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR（スキャナ部）非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode（デコーダ部）常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR（スキャナ部）非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode（デコーダ部）常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR（スキャナ部）非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode（デコーダ部）常駐失敗												
<p>備考</p> <p>読取コード情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen（）が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code を返します。</p>														

題目	OBR CODE - 39情報GET	関数名	OBRGetCode39Option	種類										
機能	OBRの動作モード中、Code39情報を読み込みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリガシケース】</p> <pre data-bbox="277 741 1417 824">int OBRGetCode39Option(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 882 344 916">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 931 1015 1059"> BOOL *pEnabled : CODE39 コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : Code39 有効 FALSE : Code39 無効 </p> <p data-bbox="217 1075 1015 1108">BYTE *lpbMinLength : Code39 最小桁数格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1111 1015 1144">BYTE *lpbMaxLength : Code39 最大桁数格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1158 1123 1191">BYTE *lpbOutFormat : Code39 出力フォーマット格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1205 1088 1238">BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1252 1171 1285">BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="172 1429 288 1462">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1509 1283 1637"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="248 1742 1310 1776">Code39情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="164 1809 384 1843">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="188 1845 1098 1904"> OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Cd39[1][2][3][4][5] を返します。 </p>													

題目	OBR NW - 7情報GET	関数名	OBRGetNW7Option	種類										
機能	OBRの動作モード中、NW7情報を読み込みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1386 819">int OBRGetNW7Option(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 882 341 911">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 929 967 1055"> BOOL *pEnabled : NW7 コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : NW7 有効 FALSE : NW7 無効 </p> <p data-bbox="217 1072 970 1140"> BYTE *lpbMinLength : NW7 最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : NW7 最大桁数格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1158 1077 1187">BYTE *lpbOutFormat : NW7 出力フォーマット格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1205 1083 1234">BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1252 1163 1281">BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="172 1442 288 1471">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1525 1283 1650"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1744 1230 1774">NW7情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="164 1812 408 1841">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1845 1326 1912"> OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Nw7 [1] ~ M_TBL.Nw7 [5] を返します。 </p>													

題目	OBR WPCA情報GET	関数名	OBRGetWPCAOOption	種類										
機能	OBRの動作モード中、WPCA情報を読みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリガシケース】</p> <pre data-bbox="277 741 1406 824">int OBRGetWPCAOOption(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar)</pre> <p data-bbox="172 882 344 916">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 931 979 1059"> BOOL *pEnabled : WPCA コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : WPCA 有効 FALSE : WPCA 無効 </p> <p data-bbox="217 1075 979 1144"> BYTE *lpbMinLength : WPCA 最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : WPCA 最大桁数格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1160 1086 1193">BYTE *lpbOutFormat : WPCA 出力フォーマット格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1209 1082 1243">BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1258 1161 1292">BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="172 1433 288 1467">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1514 1283 1641"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1744 1254 1778">WPCA情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1814 408 1848">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1850 1382 1919"> OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Wpcea [1] ~ M_TBL.Wpcea [5] を返します。 </p>													

題目	OBR WPC情報GET	関数名	OBRGetWPCOption	種類										
機能	OBRの動作モード中、Code 39情報を読みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1385 819">int OBRGetWPCOption(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 882 341 911">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 931 967 1055"> BOOL *pEnabled : WPC コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : WPC 有効 FALSE : WPC 無効 </p> <p data-bbox="217 1075 967 1140"> BYTE *lpbMinLength : WPC 最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : WPC 最大桁数格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1160 1075 1189"> BYTE *lpbOutFormat : WPC 出力フォーマット格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1209 1075 1238"> BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1258 1161 1288"> BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="172 1435 288 1464">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1514 1283 1637"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1749 1230 1778">WPC情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1816 405 1845">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1850 1353 1915"> OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Wpce [1] ~ M_TBL.Wpce [5] を返します。 </p>													

題目	OBR UPCA情報GET	関数名	OBRGetUPCAOption	種類										
機能	OBRの動作モード中、UPCA情報を読み込みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリガシケース】</p> <pre data-bbox="277 741 1406 819">int OBRGetUPCAOption(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 887 341 916">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 931 979 1055">BOOL *pEnabled : UPCA コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : UPCA 有効 FALSE : UPCA 無効</p> <p data-bbox="217 1077 979 1106">BYTE *lpbMinLength : UPCA 最小桁数格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1113 979 1142">BYTE *lpbMaxLength : UPCA 最大桁数格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1158 1091 1187">BYTE *lpbOutFormat : UPCA 出力フォーマット格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1202 1083 1232">BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1247 1163 1276">BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="172 1447 288 1476">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1529 1283 1653"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1744 1257 1774">UPCA情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="164 1812 408 1841">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1848 1107 1877">OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。</p> <p data-bbox="189 1883 1374 1912">内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Upcea [1] ~ M_TBL.Upcea [5] を返します。</p>													

題目	OBR UPC情報GET	関数名	OBRGetUPCOption	種類										
機能	OBRの動作モード中、UPC情報を読み込みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1382 819">int OBRGetUPCOption(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 887 341 916">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 931 967 1055"> BOOL *pEnabled : UPC コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : UPC 有効 FALSE : UPC 無効 </p> <p data-bbox="217 1077 967 1140"> BYTE *lpbMinLength : UPC 最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : UPC 最大桁数格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1162 1075 1191"> BYTE *lpbOutFormat : UPC 出力フォーマット格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1214 1075 1243"> BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1265 1161 1294"> BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="172 1435 288 1464">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1514 1283 1637"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1749 1230 1778">UPC情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1816 408 1845">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1850 1342 1912"> OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Upce [1] ~ M_TBL.Upce [5] を返します。 </p>													

題目	O B R Industrial2of5 情報 G E T	関数名	OBRGetIDF2o5Option	種類	
<p>機能</p> <p>OBRの動作モード中、IDF (Industrial 2 of 5) 情報を読み込みます。</p>					
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリング シーケンス】</p> <pre>int OBRGetIDF2o5Option(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BOOL *pEnabled : IDF コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : IDF 有効 FALSE : IDF 無効</p> <p>BYTE *lpbMinLength : IDF 最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : IDF 最大桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbOutFormat : IDF 出力フォーマット格納エリアへのポインタ BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ</p> <p>【戻り値】</p> <p>OBR_OK 0x00000000 : 正常終了 OBR_NOT_DEVICE 0xFFFF0703 : OBR (スキャナ部) 非常駐状態 OBR_NOT_DEVICE_DECODE 0xFFFF0704 : Decode (デコーダ部) 常駐失敗</p>					
<p>備考</p> <p>IDF (Industrial 2 of 5) 情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理 OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Idsf [1] ~ M_TBL.Idsf [5] を返します。</p>					

題目	O B R Interleaved2of5 情報 G E T	関数名	OBRGetITF2o5Option	種類										
機能	O B Rの動作モード中、I T F (I n t e r l e a v e d 2 o f 5) 情報を読み込みます。													
C 言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリガシケース】</p> <pre data-bbox="277 741 1414 819">int OBRGetITF2o5Option(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 887 341 916">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 931 967 1055">BOOL *pEnabled : ITF コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : ITF 有効 FALSE : ITF 無効</p> <p data-bbox="217 1077 967 1106">BYTE *lpbMinLength : ITF 最小桁数格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1113 967 1142">BYTE *lpbMaxLength : ITF 最大桁数格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1158 1075 1187">BYTE *lpbOutFormat : ITF 出力フォーマット格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1202 1082 1232">BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1247 1161 1276">BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="172 1429 288 1458">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1514 1283 1637"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1749 1426 1809">I T F (I n t e r l e a v e d 2 o f 5) 情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1850 405 1879">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1886 1302 1946">OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Itrf [1] ~ M_TBL.Itrf [5] を返します。</p>													

題目	OBR CODE - 93情報GET	関数名	OBRGetCode93Option	種類										
機能	OBRの動作モード中、Code93情報を読み込みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリガシケース】</p> <pre data-bbox="277 741 1417 819">int OBRGetCode93Option(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 887 341 916">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 931 1007 1055"> BOOL *pEnabled : CODE93 コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : Code93 有効 FALSE : Code93 無効 </p> <p data-bbox="217 1077 1007 1106"> BYTE *lpbMinLength : Code93 最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : Code93 最大桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbOutFormat : Code93 出力フォーマット格納エリアへのポインタ BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="172 1431 288 1460">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1514 1283 1637"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="248 1749 1310 1778">Code93情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1816 408 1845">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1850 1350 1917"> OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Cd93 [1] ~ M_TBL.Cd93 [5] を返します。 </p>													

題目	OBR CODE - 128情報GET	関数名	OBRGetCode128Option	種類
機能	OBRの動作モード中、Code128情報を読み込みます。			
C言語インタフェース	<p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRGetCode128Option(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BOOL *pEnabled : CODE128 コードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : Code128 有効 FALSE : Code128 無効</p> <p>BYTE *lpbMinLength : Code128 最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : Code128 最大桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbOutFormat : Code128 出力フォーマット格納エリアへのポインタ BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ</p> <p>【戻り値】</p> <p>OBR_OK 0x00000000 : 正常終了 OBR_NOT_DEVICE 0xFFFFF0703 : OBR (スキャナ部) 非常駐状態 OBR_NOT_DEVICE_DECODE 0xFFFFF0704 : Decode (デコーダ部) 常駐失敗</p>			
備考	<p>Code128情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理 OBROpen ()が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Cd128 [1] ~ M_TBL.Cd128 [5] を返します。</p>			

題目	OBR MSI情報GET	関数名	OBRGetMSIOption	種類										
機能	OBRの動作モード中、MSI情報を読みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリガシケース】</p> <pre data-bbox="277 741 1382 819">int OBRGetMSIOption(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 882 344 911">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 929 967 1055"> BOOL *pEnabled : MSIコードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : MSI有効 FALSE : MSI無効 </p> <p data-bbox="217 1072 970 1140"> BYTE *lpbMinLength : MSI最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : MSI最大桁数格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1158 1078 1187">BYTE *lpbOutFormat : MSI出力フォーマット格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1205 1085 1234">BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="217 1252 1165 1281">BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="172 1429 290 1458">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1509 1286 1637"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1744 1230 1774">MSI情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="164 1812 408 1841">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1845 1313 1912"> OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Msi [1] ~ M_TBL.Msi [5] を返します。 </p>													

題目	OBR IATA情報GET	関数名	OBRGetIATAOption	種類										
機能	OBRの動作モード中、IATA情報を読みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリガシケース】</p> <pre data-bbox="277 741 1390 824">int OBRGetIATAOption(BOOL *pEnabled, BYTE *lpbMinLength, BYTE *lpbMaxLength, BYTE *lpbOutFormat, BYTE *lpbCheckDigit, BYTE *lpbCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 882 344 916">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 931 979 1059"> BOOL *pEnabled : IATAコードの状態格納エリアへのポインタ TRUE : IATA有効 FALSE : IATA無効 </p> <p data-bbox="217 1075 979 1144"> BYTE *lpbMinLength : IATA最小桁数格納エリアへのポインタ BYTE *lpbMaxLength : IATA最大桁数格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1160 1086 1193"> BYTE *lpbOutFormat : IATA出力フォーマット格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1209 1082 1243"> BYTE *lpbCheckDigit : チェックデジット指定格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="217 1258 1161 1292"> BYTE *lpbCheckChar : チェックキャラクタ出力指示格納エリアへのポインタ </p> <p data-bbox="172 1429 288 1462">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1509 1283 1637"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="248 1742 1257 1776">IATA情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="164 1809 408 1843">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1848 1321 1917"> OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Code の判定と M_TBL.Iata [1] ~ M_TBL.Iata [5] を返します。 </p>													

題目	OBR 読取方式情報GET	関数名	OBRGetScanningType	種類										
機能 OBRの動作モード中、読取方式情報を読み込みます。														
C言語インタフェース 【コリック シーケンス】 <pre>int OBRGetScanningType (BYTE *lpbMode);</pre> 【パラメータ】 BYTE * lpbMode : 読取方式情報格納エリアへのポインタ OBR_TYPE0 : 単発読み OBR_TYPE1 : 連続読み (トリガキー有り) OBR_TYPE2 : 連続読み (トリガキー無し (非公開)) OBR_TYPE3 : 連続読み (トリガキー切替 (非公開)) OBR_TYPE4 : 連続読み (2アクションモード (非公開)) OBR_TYPE5 : 連続読み (回数読み (非公開))														
【戻り値】 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">OBR_OK</td> <td style="width: 30%;">0x00000000</td> <td style="width: 40%;">: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table> 備考 読取方式情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
エミュレータの処理 OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Type を返します。														

題目	OBR ブザー制御情報GET	関数名	OBRGetBuzzer	種類										
機能 OBRの動作モード中、ブザー制御情報を読み込みます。														
C言語インタフェース 【コリグ シーケンス】 <pre>int OBRGetBuzzer(BYTE *lpbMode);</pre> 【パラメータ】 BYTE * lpbMode : ブザー制御情報格納エリアへのポインタ OBR_BUZOFF : ブザー制御無し OBR_BUZON : ブザー制御有り 【戻り値】 <table border="0" data-bbox="277 1323 1283 1451"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考 ブザー制御情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。 エミュレータの処理 OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL. Buzc を返します。														

題目	OBR LED制御情報GET	関数名	OBRGetLED	種類										
<p>機能</p> <p>OBRの動作モード中、LED制御情報を読みみます。</p>														
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRGetLED(BYTE *lpbMode);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE *lpbMode : LED制御情報格納エリアへのポインタ</p> <p>OBR_LED0FF : LED制御無し</p> <p>OBR_LED0N : LED制御有り</p> <p>OBR_LED0ROF : LED制御有り (エラーなし)</p> <p>【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1429 1283 1563"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
<p>備考</p> <p>LED制御情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBR0pen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。</p> <p>内部に持っている M_TBL.Ledc を返します。</p>														

題目	OBR 出力バッファ情報GET	関数名	OBRGetBuffType	種類										
機能	OBRの動作モード中、出力バッファ情報を読み込みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 678 357 707">【コリング シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 728 762 757">int OBRGetBuffType(BYTE *lpbType);</pre> <p data-bbox="172 824 341 853">【パラメータ】</p> <p data-bbox="217 871 951 900">BYTE *lpbType : 出力バッファ情報格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="352 920 746 949">OBR_BUF0BR : OBR データバッファ</p> <p data-bbox="352 969 1219 999">OBR_STOFF : KEY バッファ選択 (指定ウインドウハンドル (START コード無し))</p> <p data-bbox="352 1019 1273 1048">OBR_ASTOFF : KEY バッファ選択 (アクティブ ウインドウハンドル (START コード無し))</p> <p data-bbox="172 1256 288 1285">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1339 1283 1464"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1744 1310 1774">出力バッファ情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1816 405 1845">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="193 1850 1107 1912">OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL. Bufc を返します。</p>													

題目	OBR 終了コード情報GET	関数名	OBRGetSuffixChar	種類										
<p>機能</p> <p>OBRの動作モード中、終了コード情報を読み込みます。</p>														
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRGetSuffixChar(BYTE *lpbEndchar);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE *lpbEndchar : 終了コード情報格納エリアへのポインタ</p> <p>OBR_ENDCR : CR コード (0Dh)</p> <p>OBR_ENDLF : LF コード (0Ah)</p> <p>OBR_ENDCL : CR コード+LF コード (0D0Ah)</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="277 1491 1283 1621"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
<p>備考</p> <p>終了コード情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Endc を返します。</p>														

題目	OBR 読取動作モードGET	関数名	OBRGetModeReadAction	種類										
機能 OBRの動作モード中、読取動作モード情報を読み込みます。														
C言語インタフェース 【コリング シーケンス】 <pre>int OBRGetModeReadAction (BYTE *lpbType);</pre> 【パラメータ】 BYTE *lpbType : 読取動作モード情報格納エリアへのポインタ OBR_NORM : 通常読み OBR_DANN : 段数読み 【戻り値】 <table border="0" data-bbox="276 1249 1286 1384"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考 読取動作モード情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。 エミュレータの処理 OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.Mode を返します。														

題目	OBR 照合回数情報GET	関数名	OBRGetCheckCounter	種類										
機能	OBRの動作モード中、照合回数情報を読み込みます。													
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 831 775">int OBRGetCheckCounter (int *lpiCounter);</pre> <p data-bbox="172 931 344 965">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 981 951 1014">int *lpiCounter : 照合回数情報格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="172 1379 288 1413">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1458 1283 1592"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
備考	<p data-bbox="245 1742 1257 1776">照合回数情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1809 408 1843">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1845 1110 1912">OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL. cmp_ct を返します。</p>													

題目	OBR 読取回数情報GET	関数名	OBRGetScanningCounter	種類										
<p>機能</p> <p>OBRの動作モード中、読取回数情報を読み込みます。</p>														
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRGetScanningCounter(int *lpiCounter);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>int *lpiCounter : 読取回数情報格納エリアへのポインタ</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="276 1234 1284 1368"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
<p>備考</p> <p>読取回数情報の内容については、P.21 動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.rd_ct を返します。</p>														

題目	OBR スキャン終了監視タイマ情報 GET	関数名	OBRGetScanningTimeout	種類										
<p>機能</p> <p>OBRの動作モード中、スキャン終了監視タイマ情報を読み込みます。</p>														
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリング シーケンス】</p> <pre>OBRGetScanningTimeout(int *lpiTimer);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>int * lpiTimer : スキャン終了監視タイマ情報格納エリアへのポインタ</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="276 1473 1286 1608"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了												
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態												
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗												
<p>備考</p> <p>スキャン終了監視タイマ情報の内容については、P.21 動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されていない場合は OBR_NOT_DEVICE が返ります。 内部に持っている M_TBL.scn_tm を返します。</p>														

題目	OBR 読取コード情報SET	関数名	OBRSetScanningCode	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定された読取コード情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリガシケース】</p> <p data-bbox="277 741 804 775">OBRSetScanningCode(DWORD dwMode);</p> <p data-bbox="172 931 344 965">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 981 820 1014">DWORD dwMode : 設定する読取コード情報</p> <p data-bbox="172 1155 288 1189">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1223 1283 1417"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="245 1742 1230 1776">読取コード情報の内容については、P.21 動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1809 408 1843">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1848 970 1881">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p data-bbox="189 1886 775 1919">内部に持っている M_TBL. Code を設定します。</p>																			

題目	OBR CODE - 39情報情報SET	関数名	OBRSetCode39Option	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定されたCODE 39情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリクシ シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1318 824">int OBRSetCode39Option(BYTE bEnabled, BYTE bMinLength, BYTE bMaxLength, BYTE bOutFormat, BYTE bCheckDigit, BYTE bCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 981 341 1014">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 1025 999 1059">BYTE bEnabled : Code39 コード使用の有効 / 無効設定情報</p> <p data-bbox="352 1077 711 1111">OBR_CODE_ENABLE : Code39 有効</p> <p data-bbox="352 1128 735 1162">OBR_CODE_DISABLE : Code39 無効</p> <p data-bbox="352 1180 1126 1214">OBR_CODE_IGNORE : Code39 コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p data-bbox="277 1209 815 1243">BYTE bMinLength : Code39 最小桁数設定値</p> <p data-bbox="277 1261 815 1294">BYTE bMaxLength : Code39 最大桁数設定値</p> <p data-bbox="277 1312 922 1346">BYTE bOutFormat : Code39 出力フォーマット設定値</p> <p data-bbox="277 1364 890 1397">BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p data-bbox="277 1415 967 1449">BYTE bCheckChar : チェックキャラクタ出力指示設定値</p> <p data-bbox="172 1480 288 1514">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1547 1286 1749"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="248 1832 1254 1865">CODE 39 情報の内容については、P.21 動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1899 408 1933">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="193 1935 975 1993">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL.Code と Cd39[1] ~[5] を設定します。</p>																			

題目	OBR NW - 7情報情報SET	関数名	BRSetNW7Option	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定されたNW7情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1289 819">int OBRSetNW7Option(BYTE bEnabled, BYTE bMinLength, BYTE bMaxLength, BYTE bOutFormat)</pre> <p data-bbox="172 976 341 1005">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 1028 959 1057">BYTE bEnabled : NW7 コード使用の有効 / 無効設定情報</p> <p data-bbox="352 1079 671 1108">OBR_CODE_ENABLE : NW7 有効</p> <p data-bbox="352 1131 695 1160">OBR_CODE_DISABLE : NW7 無効</p> <p data-bbox="352 1182 1086 1211">OBR_CODE_IGNORE : NW7 コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p data-bbox="277 1211 772 1240">BYTE bMinLength : NW7 最小桁数設定値</p> <p data-bbox="277 1263 772 1292">BYTE bMaxLength : NW7 最大桁数設定値</p> <p data-bbox="277 1314 884 1344">BYTE bOutFormat : NW7 出力フォーマット設定値</p> <p data-bbox="172 1500 288 1529">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1563 1283 1760"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRN</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRN	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRN	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="245 1845 1230 1874">NW7情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1912 405 1942">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="193 1951 975 1980">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p data-bbox="193 1989 986 2018">内部に持っている M_TBL. Code と Nw7 [1][2][5] を設定します。</p>																			

題目	OBR WPCA情報情報SET	関数名	OBRSetWPCAOption	種類															
機能	OBRの動作モードに、指定されたWPCA情報を設定します。																		
C言語インタフェース	<p>【コリック シーケンス】</p> <pre>int OBRSetWPCAOption(BYTE bEnabled,BYTE bCheckDigit);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE bEnabled : WPCA コード使用の有効 / 無効設定情報 OBR_CODE_ENABLE : WPCA 有効 OBR_CODE_DISABLE : WPCA 無効 OBR_CODE_IGNORE : WPCA コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p>BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p>【戻り値】</p> <table> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>				OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	
備考	<p>WPCA情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理 OBROpen ()が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL. Code と Wpcea [4] を設定します。</p>																		

題目	OBR WPC情報情報SET	関数名	OBRSetWPCOption	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定されたWPC情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1043 775">int OBRSetWPCOption(BYTE bEnabled, BYTE bCheckDigit);</pre> <p data-bbox="172 931 344 965">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 981 957 1014">BYTE bEnabled : WPC コード使用の有効 / 無効設定情報</p> <p data-bbox="352 1028 671 1061">OBR_CODE_ENABLE : WPC 有効</p> <p data-bbox="352 1075 699 1108">OBR_CODE_DISABLE : WPC 無効</p> <p data-bbox="352 1122 1086 1155">OBR_CODE_IGNORE : WPC コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p data-bbox="277 1169 890 1202">BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p data-bbox="172 1458 288 1491">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1525 1283 1720"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="245 1809 1230 1843">WPC情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1877 408 1910">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="193 1912 970 1946">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p data-bbox="193 1948 932 1982">内部に持っている M_TBL. Code と Wpce [4] を設定します。</p>																			

題目	OBR UPCA情報情報SET	関数名	OBRSetUPCAOption	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定されたUPCA情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリグ シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1310 775">int OBRSetUPCAOption(BYTE bEnabled, BYTE bCheckDigit, BYTE bCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 931 344 965">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 981 970 1014">BYTE bEnabled : UPCA コード使用の有効 / 無効設定情報</p> <p data-bbox="352 1028 683 1061">OBR_CODE_ENABLE : UPCA 有効</p> <p data-bbox="352 1075 708 1108">OBR_CODE_DISABLE : UPCA 無効</p> <p data-bbox="352 1122 1098 1155">OBR_CODE_IGNORE : UPCA コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p data-bbox="272 1169 890 1202">BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p data-bbox="272 1205 967 1238">BYTE bCheckChar : チェックキャラクタ出力指示設定値</p> <p data-bbox="172 1447 288 1480">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1514 1283 1709"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="245 1794 1257 1827">UPCA情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1861 408 1895">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1897 970 1930">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p data-bbox="189 1933 967 1966">内部に持っている M_TBL. Code と Upcea [4] [5]を設定します。</p>																			

題目	OBR UPC情報情報SET	関数名	OBRSetUPCOption	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定されたUPC情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリガシケース】</p> <pre data-bbox="276 741 1294 770">int OBRSetUPCOption(BYTE bEnabled, BYTE bCheckDigit, BYTE bCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 927 344 956">【パラメータ】</p> <p data-bbox="276 978 957 1008">BYTE bEnabled : UPCコード使用の有効 / 無効設定情報</p> <p data-bbox="349 1025 671 1055">OBR_CODE_ENABLE : UPC有効</p> <p data-bbox="349 1072 697 1102">OBR_CODE_DISABLE : UPC無効</p> <p data-bbox="349 1120 1086 1149">OBR_CODE_IGNORE : UPCコード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p data-bbox="271 1167 890 1196">BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p data-bbox="271 1202 967 1232">BYTE bCheckChar : チェックキャラクタ出力指示設定値</p> <p data-bbox="172 1442 288 1471">【戻り値】</p> <table data-bbox="276 1509 1283 1704"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="245 1794 1230 1823">UPC情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="164 1861 408 1890">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="188 1897 970 1926">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p data-bbox="188 1933 954 1962">内部に持っている M_TBL. Code と Upce [4] [5]を設定します。</p>																			

題目	関数名	種類															
機能	OBR Industrial2of5 情報SET	OBRSetIDF2o5Option															
<p>OBRの動作モードに、指定されたIDF (Industrial2of5) 情報を設定します。</p> <p>C言語インタフェース</p> <p>【コリング シーケンス】</p> <pre>int OBRSetIDF2o5Option(BYTE bEnabled, BYTE bMinLength, BYTE bMaxLength, BYTE bCheckDigit, BYTE bCheckChar);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE bEnabled : IDF コード使用の有効 / 無効設定情報 OBR_CODE_ENABLE : IDF 有効 OBR_CODE_DISABLE : IDF 無効 OBR_CODE_IGNORE : IDF コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p>BYTE bMinLength : IDF 最小桁数設定値</p> <p>BYTE bMaxLength : IDF 最大桁数設定値</p> <p>BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p>BYTE bCheckChar : チェックキャラクタ出力指示設定値</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>			OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了															
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー															
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み															
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態															
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗															
<p>備考</p> <p>IDF 情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL. Code と Idsf [1][2] [4] [5]を設定します。</p>																	

題目	OBR Interleaved2of5 情報 SET	関数名	OBRSetITF2o5Option	種類															
機能	OBRの動作モードに、指定されたITF (Interleaved2of5) 情報を設定します。																		
C言語インタフェース	<p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRSetITF2o5Option(BYTE bEnabled, BYTE bMinLength, BYTE bMaxLength, BYTE bCheckDigit, BYTE bCheckChar);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE bEnabled : ITF コード使用の有効 / 無効設定情報 OBR_CODE_ENABLE : ITF 有効 OBR_CODE_DISABLE : ITF 無効 OBR_CODE_IGNORE : ITF コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p>BYTE bMinLength : ITF 最小桁数設定値</p> <p>BYTE bMaxLength : ITF 最大桁数設定値</p> <p>BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p>BYTE bCheckChar : チェックキャラクタ出力指示設定値</p> <p>【戻り値】</p> <table> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>				OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	
備考	<p>ITF 情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL. Code と Itrf [1][2] [4] [5]を設定します。</p>																		

題目	OBR CODE - 93情報情報 SET	関数名	OBRSetCode93Option	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定されたCODE93情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 723">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1318 824">int OBRSetCode93Option(BYTE bEnabled, BYTE bMinLength, BYTE bMaxLength, BYTE bCheckDigit);</pre> <p data-bbox="172 981 344 1014">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 1025 999 1059">BYTE bEnabled : Code93 コード使用の有効 / 無効設定情報</p> <p data-bbox="352 1077 711 1111">OBR_CODE_ENABLE : Code93 有効</p> <p data-bbox="352 1128 735 1162">OBR_CODE_DISABLE : Code93 無効</p> <p data-bbox="352 1180 1126 1214">OBR_CODE_IGNORE : Code93 コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p data-bbox="277 1209 815 1243">BYTE bMinLength : Code93 最小桁数設定値</p> <p data-bbox="277 1261 815 1294">BYTE bMaxLength : Code93 最大桁数設定値</p> <p data-bbox="277 1312 890 1346">BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p data-bbox="172 1402 288 1435">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1462 1286 1664"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="248 1749 1310 1783">CODE93情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1816 408 1850">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="193 1850 970 1883">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p data-bbox="193 1883 999 1917">内部に持っている M_TBL. Code と Cd93 [1][2][4] を設定します。</p>																			

題目	OBR CODE - 128情報情報SET	関数名	OBRSetCode128Settings	種類															
<p>機能</p> <p>OBRの動作モードに、指定されたCODE 128情報を設定します。</p>																			
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリック シーケンス】</p> <pre>int OBRSetCode128Settings(BYTE bEnabled, BYTE bMinLength, BYTE bMaxLength, BYTE bOutFormat, BYTE bCheckDigit);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE bEnabled : Code128 コード使用の有効 / 無効設定情報 OBR_CODE_ENBLE : Code128 有効 OBR_CODE_DISABLE : Code128 無効 OBR_CODE_IGNORE : Code128 コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p>BYTE bMinLength : Code128 最小桁数設定値</p> <p>BYTE bMaxLength : Code128 最大桁数設定値</p> <p>BYTE bOutFormat : Code128 出力フォーマット設定値</p> <p>BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="277 1559 1286 1756"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	
<p>備考</p> <p>CODE 128情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL. Code と Cd128 [1][2][3][4] を設定します。</p>																			

題目	OBR MSI情報情報SET	関数名	OBRSetMSIOption	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定されたMSI情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 1278 819">int OBRSetMSIOption(BYTE bEnabled, BYTE bMinLength, BYTE bMaxLength, BYTE bCheckDigit, BYTE bCheckChar);</pre> <p data-bbox="172 976 341 1005">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 1028 959 1057">BYTE bEnabled : MSI コード使用の有効 / 無効設定情報</p> <p data-bbox="352 1079 671 1108">OBR_CODE_ENABLE : MSI 有効</p> <p data-bbox="352 1131 695 1160">OBR_CODE_DISABLE : MSI 無効</p> <p data-bbox="352 1182 1086 1211">OBR_CODE_IGNORE : MSI コード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p data-bbox="277 1211 772 1240">BYTE bMinLength : MSI 最小桁数設定値</p> <p data-bbox="277 1263 772 1292">BYTE bMaxLength : MSI 最大桁数設定値</p> <p data-bbox="277 1314 890 1344">BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p data-bbox="277 1344 967 1373">BYTE bCheckChar : チェックキャラクタ出力指示設定値</p> <p data-bbox="172 1485 288 1514">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1547 1283 1742"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="245 1832 1230 1861">MSI情報の内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1899 408 1928">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="193 1935 1007 1995">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL. Code と Msi [1][2][4][5] を設定します。</p>																			

題目	OBR IATA情報情報SET	関数名	OBRSetIATAOption	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定されたIATA情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリガシケス】</p> <pre data-bbox="277 741 1294 819">int OBRSetIATAOption(BYTE bEnabled, BYTE bMinLength, BYTE bMaxLength, BYTE bCheckDigit);</pre> <p data-bbox="172 976 344 1005">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 1028 970 1057">BYTE bEnabled : IATAコード使用の有効 / 無効設定情報</p> <p data-bbox="352 1077 683 1106">OBR_CODE_ENABLE : IATA有効</p> <p data-bbox="352 1126 708 1155">OBR_CODE_DISABLE : IATA無効</p> <p data-bbox="352 1176 1098 1205">OBR_CODE_IGNORE : IATAコード使用の有効 / 無効設定内容継続</p> <p data-bbox="272 1225 783 1254">BYTE bMinLength : IATA最小桁数設定値</p> <p data-bbox="272 1274 788 1303">BYTE bMaxLength : IATA最大桁数設定値</p> <p data-bbox="272 1323 890 1352">BYTE bCheckDigit : チェックデジット指示設定値</p> <p data-bbox="172 1442 288 1471">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1514 1283 1709"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="248 1794 1257 1823">IATA情報の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1861 408 1890">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="189 1899 975 1962">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL. Code と Iata [1][2][4] を設定します。</p>																			

題目	OBR 読取方式情報SET	関数名	OBRSetScanningType	種類																
<p>機能</p> <p>OBRの動作モードに、指定された読取方式情報を設定します。</p>																				
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケス】</p> <pre>int OBRSetScanningType (BYTE bType);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE bType : 設定する読取方式情報</p> <ul style="list-style-type: none"> OBR_TYPE0 : 単発読み OBR_TYPE1 : 連続読み (トリガキー有り) OBR_TYPE2 : 連続読み (トリガキー無し (非公開)) OBR_TYPE3 : 連続読み (トリガキー切替 (非公開)) OBR_TYPE4 : 連続読み (2アクションモード (非公開)) OBR_TYPE5 : 連続読み (回数読み (非公開)) <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="277 1384 1283 1576"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
<p>備考</p> <p>OBRの動作モードの内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL.Type を設定します。</p>																				

題目	OBR ブザー制御情報情報SET	関数名	OBRSetBuzzer	種類																
<p>機能</p> <p>OBRの動作モードに、指定されたブザー制御情報を設定します。</p>																				
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRSetBuzzer(BYTE bMode);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE bMode : 設定するブザー制御情報</p> <p>OBR_BUZOFF : ブザー制御無し</p> <p>OBR_BUZON : ブザー制御有り</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="279 1400 1284 1601"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
<p>備考</p> <p>OBRの動作モードの内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p>内部に持っている M_TBL.Buzc を設定します。</p>																				

題目	OBR LED制御情報SET	関数名	OBRSetLED	種類																
<p>機能</p> <p>OBRの動作モードに、指定されたLED制御情報を設定します。</p>																				
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケース】</p> <pre>OBRSetLED(BYTE bMode);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE bMode : 設定するLED制御情報</p> <p>OBR_LED OFF : LED制御無し</p> <p>OBR_LED ON : LED制御有り</p> <p>OBR_LED EROF : LED制御有り (エラーなし)</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="277 1473 1283 1675"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
<p>備考</p> <p>OBRの動作モード中の内容については、21ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p>内部に持っている M_TBL.Ledc を設定します。</p>																				

題目	OBR 終了コード情報SET	関数名	OBRSetSuffixChar	種類																
機能	OBRの動作モードに、指定された終了コード情報を設定します。																			
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリガシケース】</p> <p data-bbox="277 741 746 770">OBRSetSuffixChar(BYTE bEndchar);</p> <p data-bbox="172 927 341 956">【パラメータ】</p> <p data-bbox="277 978 804 1008">BYTE bEndchar : 設定する終了コード情報</p> <p data-bbox="351 1025 679 1055">OBR_ENDCR : CR コード (0Dh)</p> <p data-bbox="351 1072 679 1102">OBR_ENDLF : LF コード (0Ah)</p> <p data-bbox="351 1120 833 1149">OBR_ENDCL : CR コード+LF コード (0D0Ah)</p> <p data-bbox="172 1359 288 1388">【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1429 1283 1626"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考	<p data-bbox="245 1744 1337 1774">OBRの動作モードの内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。</p> <p data-bbox="165 1812 408 1841">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="188 1848 970 1877">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p data-bbox="188 1883 762 1912">内部に持っている M_TBL.Endc を設定します。</p>																			

題目	OBR 読取動作モード情報SET	関数名	OBRSetModeReadAction	種類																
<p>機能</p> <p>OBRの動作モードに、指定された読取動作モード情報を設定します。</p>																				
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリグ シーケンス】</p> <p>OBRSetModeReadAction (BYTE bType);</p> <p>【パラメータ】</p> <p>BYTE bType : 設定する読取動作モード情報</p> <p>OBR_NORM : 通常読み</p> <p>OBR_DANN : 段数読み</p> <p>【戻り値】</p> <table data-bbox="277 1473 1283 1675"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		

備考

OBRの動作モードの内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。

エミュレータの処理

OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。
内部に持っている M_TBL.Mode を設定します。

題目	OBR 照合回数情報SET	関数名	OBRSetCheckCounter	種類															
機能	OBRの動作モードに、指定された照合回数情報を設定します。																		
C 言語インタフェース	<p>【コリング シーケンス】</p> <pre>OBRSetCheckCounter(int iCounter);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>int iCounter : 設定する照合回数情報 (指定範囲 1 ~ 9)</p> <p>【戻り値】</p> <table> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>				OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	

備考

OBRの動作モードの内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。

エミュレータの処理

OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。
内部に持っている M_TBL.cmp_ct を設定します。

題目	OBR 読取回数情報SET	関数名	OBRSetScanningCounter	種類															
機能	OBRの動作モードに、指定された読取回数情報を設定します。																		
C言語インタフェース	<p>【コリング シーケンス】</p> <pre>OBRSetScanningCounter(int iCounter);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>int iCounter : 設定する読取回数情報 (指定範囲 1 ~ 9)</p> <p>【戻り値】</p> <table> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>				OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	

備考

OBRの動作モードの内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。

エミュレータの処理

OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。
内部に持っている M_TBL.rd_ct を設定します。

題目	OBR スキャン終了監視タイマ情報SET	関数名	OBRSetScanningTimeout	種類	
機能	OBRの動作モードに、指定されたスキャン終了監視タイマ情報を設定します。				

C 言語インタフェース

【コリング シーケンス】

```
OBRSetScanningTimeout(int iTimer);
```

【パラメータ】

int iTimer : 設定するスキャン終了監視タイマ情報 (指定範囲 1~9 (単位: 秒))

【戻り値】

OBR_OK	0x00000000	: 正常終了
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗

備考

OBRの動作モードの内容については、21 ページ動作モードテーブルを参照してください。

エミュレータの処理

OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。
内部に持っている M_TBL.scn_tm を設定します。

題目	OBR 初期値情報SET	関数名	OBRSetDefaultSymbology	種類
機能	OBRの動作モードを、初期値 (OBRドライバ、デフォルト値) に設定します。			

C 言語インタフェース

【コリング シーケンス】

```
OBRSetDefaultSymbology(void);
```

【パラメータ】

なし

【戻り値】

OBR_OK	0x00000000	: 正常終了
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗

備考

エミュレータの処理

OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。
内部に持っている M_TBL をデフォルト値に戻します。

題目	関数名	種類
OBR ini File読み込み情報SET	OBRSetIniFileOption	

機能

ini Fileの読み込みを行い、OBRドライバの動作モード初期値（OBRドライバ、デフォルト値）の変更を行います。

C言語インタフェース

【コリング シーケンス】

```
int OBRSetIniFileOption(void);
```

【パラメータ】

なし

【戻り値】

OBR_OK	0x00000000	: 正常終了
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR（スキャナ部）非常駐状態
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode（デコーダ部）常駐失敗

備考

ini Fileが存在しない場合でも、正常終了します。

エミュレータの処理

OBROpen（）が発行されている場合はOBR_PONを返します。

ini Fileの読み込みは行わず、OBR_OKを返します。

題目	OBR ini File書き込み	関数名	OBRUpDateIniFileOption	種類																
機能 OBRドライバの、現在の動作モードを ini F i l e に書き込みを行います。																				
C言語インタフェース 【コリック シーケンス】 <pre>int OBRUpDateIniFileOption(void);</pre> 【パラメータ】 なし 【戻り値】 <table border="0" data-bbox="276 1413 1283 1608"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>						OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																		
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																		
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																		
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																		
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																		
備考 エミュレータの処理 OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 ini F i l e の書き込みは行わず、OBR_OK を返します。																				

題目	OBR フィルタモード情報GET	関数名	OBRGetFilterFunction	種類															
機能	OBRドライバの、現在のフィルタモード情報を読み込みます。																		
C言語インタフェース	<p data-bbox="172 689 357 719">【コリック シーケンス】</p> <pre data-bbox="276 741 954 770">int OBRGetFilterFunction(DWORD *lpdwFuncMode);</pre> <p data-bbox="172 927 344 956">【パラメータ】</p> <p data-bbox="244 978 1126 1008">DWORD *lpdwFuncMode : フィルタモード情報格納エリアへのポインタ</p> <p data-bbox="296 1028 943 1187"> OBR_NOFILTER : フィルタ未使用 OBR_SOFTFILTER : ソフトフィルタ使用 OBR_HARDFILTER : ハードフィルタ使用 OBR_SOFTHARDFILTER : ソフト及びハードフィルタ使用 </p> <p data-bbox="172 1346 288 1375">【戻り値】</p> <table data-bbox="276 1413 1283 1608"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>				OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	
備考	<p data-bbox="164 1756 408 1785">エミュレータの処理</p> <p data-bbox="188 1805 970 1834">OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p data-bbox="188 1854 855 1883">内部に持っている M_TBL. dwFilterMode を返します。</p>																		

題目	OBR フィルタモード情報SET	関数名	OBRSetFilterFunction	種類															
<p>機能</p> <p>OBRドライバの、現在のフィルタモード情報の設定を行います。</p>																			
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRSetFilterFunction(DWORD dwFuncMode);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>DWORD dwFuncMode : フィルタモード情報設定値</p> <p>OBR_NOFILTER : フィルタ未使用 OBR_SOFTFILTER : ソフトフィルタ使用 OBR_HARDFILTER : ハードフィルタ使用 OBR_SOFTHARDFILTER : ソフト及びハードフィルタ使用</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	
<p>備考</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL.dwFilterMode を設定します。</p>																			

題目	OBR フィルタONタイマ情報GET	関数名	OBRGetFilterOnTimer	種類															
<p>機能</p> <p>OBRドライバの、現在のフィルタONタイマ情報を読みみます。</p>																			
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリガシケース】</p> <pre>int OBRGetFilterOnTimer(int *lpiTimer)</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>DWORD *lpdwFuncMode : フィルタ ON タイマ情報格納エリアへのポインタ</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="277 1429 1283 1626"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	
<p>備考</p> <p>フィルタ ON タイマ : スキャン開始 (デコード開始) からソフト/ハードフィルタ ON するまでの時間</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。</p> <p>内部に持っている M_TBL.dwFilterCnt を返します。</p>																			

題目	OBR フィルタONタイマ情報SET	関数名	OBRSetFilterOnTimer	種類															
<p>機能</p> <p>OBRドライバの、現在のフィルタONタイマ情報の設定を行います。</p>																			
<p>C言語インタフェース</p> <p>【コリグ シーケンス】</p> <pre data-bbox="277 741 759 775">int OBRSetFilterOnTimer(int iTimer);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>DWORD iTimer : フィルタ ON タイマ情報設定値 (秒単位、範囲：1~8)</p> <p>【戻り値】</p> <table border="0" data-bbox="277 1429 1283 1626"> <tr> <td>OBR_OK</td> <td>0x00000000</td> <td>: 正常終了</td> </tr> <tr> <td>OBR_PRM</td> <td>0xFFFFFFFF</td> <td>: 引数データエラー</td> </tr> <tr> <td>OBR_PON</td> <td>0xFFFF0700</td> <td>: オープン済み</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE</td> <td>0xFFFF0703</td> <td>: OBR (スキャナ部) 非常駐状態</td> </tr> <tr> <td>OBR_NOT_DEVICE_DECODE</td> <td>0xFFFF0704</td> <td>: Decode (デコーダ部) 常駐失敗</td> </tr> </table>					OBR_OK	0x00000000	: 正常終了	OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー	OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み	OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態	OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗
OBR_OK	0x00000000	: 正常終了																	
OBR_PRM	0xFFFFFFFF	: 引数データエラー																	
OBR_PON	0xFFFF0700	: オープン済み																	
OBR_NOT_DEVICE	0xFFFF0703	: OBR (スキャナ部) 非常駐状態																	
OBR_NOT_DEVICE_DECODE	0xFFFF0704	: Decode (デコーダ部) 常駐失敗																	
<p>備考</p> <p>フィルタ ON タイマ : スキャン開始 (デコード開始) からソフト/ハードフィルタ ON するまでの時間</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>OBROpen () が発行されている場合は OBR_PON を返します。 内部に持っている M_TBL.dwFilterCnt を設定します。</p>																			

題目	LOG 情報採取要求	関数名	OBRIntLogRequest	種類	
<p>機能</p> <p>OBR ドライバ (スキャナ部、デコーダ部) にて採取した LOG 情報取り出し要求を行います。 ドライバは本関数を受付ける事により LOG 情報をファイルに出力します。 スキャナ部 : ObrLog.dat (ルートディレクトリに作成します) デコーダ部 : DecodeLog.dat (ルートディレクトリに作成します)</p>					
<p>C 言語インタフェース</p> <p>【コリング シーケンス】</p> <pre>int OBRIntLogRequest(void);</pre> <p>【パラメータ】</p> <p>なし</p> <p>【戻り値】</p> <p>OBR_OK 0x00000000 : 正常終了</p>					
<p>備考</p> <p>エミュレータの処理</p> <p>何もせずに OBR_OK を返します。</p>					

§ 4. LOG 情報説明

4-1. LOG ファイル形式

LOG ファイル形式

先頭 4 バイト：LOG ファイル書き込みカウンタ

5 バイト以降：LOG 情報

LOG 情報レコード形式

LOGID	LOGINF 1	LOGINF 2	LOGINF 3
(4 バイト)	(4 バイト)	(4 バイト)	(4 バイト)

LOGID：採取 LOG 情報識別子

LOGINF 1：LOG 付加情報 1（各 LOG 採取時、付加情報設定）

LOGINF 2：LOG 付加情報 2（各 LOG 採取時、付加情報設定）

LOGINF 3：LOG 付加情報 3（各 LOG 採取時、付加情報設定）

ファイル名（スキャナ部、デコーダ部ともルートディレクトリにファイルを生成します）

スキャナ部の LOG ファイル名：ObrLog.dat

デコーダ部の LOG ファイル名：DecodeLog.dat

4-2. スキャナ部LOGIDの説明

LOGID	LOG 情報の内容
0x00000001	タイミング割込み開始
0x00000002	タイミング割込み終了
0x00000003	マトリクス処理起動要求開始
0x00000004	マトリクス処理起動要求終了
0x00000005	D M A 開始
0x00000006	D M A 停止
0x00000007	シグナルエラー割込み発生
0x00000008	タイミングエラー割込み発生
0x00000009	不正割込み発生
0x0000000A	タイミングカウンタ不正 (8.33ms ~ 12.5ms 以外の値時に発生)
0x0000000B	異常チェックフェーズ処理
0x0000000C	データスキップフェーズ処理
0x0000000D	データ RECV (ファースト) フェーズ処理
0x0000000E	データ RECV (セカンド) フェーズ処理
0x0000000F	デコード開始
0x00000010	デコード終了
0x00000011	データバッファ編集処理開始
0x00000012	データバッファ編集処理終了
0x00000013	データ照合処理続行
0x00000014	二度読み発生
0x00000015	読取方式 2or3 時の読取完了
0x00000016	読取方式 4 時の読取完了
0x00000017	マトリクススレッドのマトリクス処理開始
0x00000018	マトリクススレッドのマトリクス処理終了
0x00000019	マトリクス処理
0x00000064	O B R O P E N 要求受付 (O B R _ o p e n)
0x00000065	O B R O P E N 要求終了 (O B R _ o p e n)
0x00000066	O B R C L O S E 要求受付 (O B R _ c l o s e)
0x00000067	O B R C L O S E 要求終了 (O B R _ c l o s e)
0x0000008E	O B R I / O C O N T R O L 要求受付
0x0000008F	O B R I / O C O N T R O L 要求終了
0x00000096	O B R P O W U P 受付
0x00000097	O B R P O W U P 終了
0x00000098	O B R P O W D O W N 受付

0x00000099	O B R P O W D O W N 終了
------------	------------------------

4-3. デコーダ部LOGIDの説明

LOGID	LOG 情報の内容
0x00000001	デコード開始
0x00000002	デコード終了
0x00000003	マージ処理開始
0x00000004	マージ処理終了
0x00000005	C O D E 3 9 デコード開始
0x00000006	C O D E 3 9 デコード終了
0x00000007	N W 7 デコード開始
0x00000008	N W 7 デコード終了
0x0000000B	W P C デコード開始
0x0000000C	W P C デコード終了
0x0000000F	U P C - E デコード開始
0x00000010	U P C - E デコード終了
0x00000011	I D F / I T F デコード開始
0x00000012	I D F / I T F デコード終了
0x00000015	C O D E 9 3 デコード開始
0x00000016	C O D E 9 3 デコード終了
0x00000017	C O D E 1 2 8 デコード開始
0x00000018	C O D E 1 2 8 デコード終了
0x00000019	M S I デコード開始
0x0000001A	M S I デコード終了
0x0000001B	I A T A デコード開始
0x0000001C	I A T A デコード終了
0x0000001D	J A N デコード開始
0x0000001E	J A N デコード終了
0x0000001F	A D D O N デコード開始
0x00000020	A D D O N デコード終了
0x00000064	デコード O P E N 要求受付
0x00000065	デコード O P E N 要求終了
0x00000066	デコード C L O S E 要求受付
0x00000067	デコード C L O S E 要求終了
0x00000068	デコード 要求受付
0x00000069	デコード 要求終了
0x0000006A	デコード G E T R E V 要求受付
0x0000006B	デコード G E T R E V 要求終了

HANDY TERMINAL DT-870

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

システムソリューション営業統轄部

TEL : 03-5334-4638